

平成 22 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19590513

研究課題名（和文） 占領期の保健医療政策に関する考察  
- GHQ 文書の電子ファイル化による時系列分析 -

研究課題名（英文） Studies on the healthcare policies of Japan. A historical analysis of the digital files of the GHQ documents

研究代表者

杉田 聡 (SUGITA SATORU)

大分大学・医学部・教授

研究者番号：00222050

研究成果の概要（和文）：占領期の連合国最高司令官総司令部の行政文書の中には公衆衛生福祉局(PHW)の Daily Journal という局内での回覧文書が存在する。本研究では、この Daily Journal に貼付されている Memorandum for Record の表題の中で、現存するものと現存しないものごとを整理しリストを作成した。さらに、このリストを PDF ファイル化した原資料にハイパーリンク化させ、公衆衛生福祉局(及び日本側)の活動を時系列に分析を行った。

研究成果の概要（英文）：In the administrative archives written by GHQ/SCAP(General Headquarters, Supreme commander of Allied Powers), a few thousands of circular letters ,named “Daily Journal”, of Public Health and Welfare Section existed. We analyzed them and selected the valid documents, named “Memorandum for Record”, for studying the reform of the health care policy in Occupied Japan. We also reproduced the original texts to the digital documents as PDF files. We selected some topics and names of person on the “Memorandum for Record” and created hyperlinks to other documents of PHW.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
20 年度	900,000	270,000	1,170,000
21 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・医療社会学

キーワード：GHQ, 占領史, 保健医療史, 医療政策, 感染症

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 占領期の日本では間接占領制が布かれ、連合国最高司令官総司令部(GHQ)の指示や示唆の下、日本政府が行政機構網を通じて政策を実施した。保健医療政策は公衆衛生福祉局(PHW: Public Health and Welfare)が占領軍

側の担当部署であり、日本政府側の担当部署は厚生省であった。PHW から厚生省へは主に一般命令(General Order)として指令や指導・示唆が占領政策として伝えられ、行政用記録文書として、担当部署で作成されたのが Memorandum for Record(記録用覚書)である。

この Memorandum for Record は、PHW 内で回覧された Daily Journal に添付された形で保存されている。占領期の日本国内の史料の多くは散逸・亡失して、当時の活動を参照することは困難である。一方、GHQ は占領終了後に多くの公文書(英文)を持ち帰り、その文書は米国公文書館に保存・公開されている。そこで研究代表者らは、PHW 内で回覧文書に添付された Memorandum for Record を分析することにより占領期の保健医療政策を解明できるのではないかと考えた。

(2) この Memorandum for Record では活動が“リアルタイム”で記述されているため、辻褃合わせや占領軍の政策の正当化が行われ難い一次資料と考えられる。また、研究代表者らが既に復刻を完了した Weekly Bulletin(PHW の週刊広報)をこの覚書と照合することにより、占領期における日米の政策交渉の姿を明らかにすることが期待される。

## 2. 研究の目的

(1) 連合国最高司令官総司令部公衆衛生福祉部(GHQ/SCAP/PHW)の記録文書である Memorandum for Record は、占領軍内や日本政府との交渉の経過を記した占領期の保健医療政策研究上の重要な資料である。

(2) そこで本研究においては、Memorandum for Record の復刻作業を行い、GHQ 文書の電子ファイル化による時系列分析を行うことにより、保健医療政策の経過を分析するほか、GHQ 文書中の統計資料と時系列の出来事の関連づけを行うことを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 占領期の文書である GHQ/SCAP/PHW 文書は必ずしも系統的には保存されていないため、その中より、無線文、指令、記録用覚書(Memorandum for Record)、会議、手紙、チェックシート等の記録文書が添付されている Daily Journal を抽出する。これらの文書は何重にもカーボンコピーされたため判読が困難になっているため、それらの復刻作業を行いながら Daily Journal の中から記録用覚書(Memorandum for Record)の表題リストをデータシートに入力する。この際、リストにある文書の全てが実際には必ずしも添付されていないため、また逆に表題リストには掲載されていないが文書は存在するものもあるため、その仕分け作業を行った。

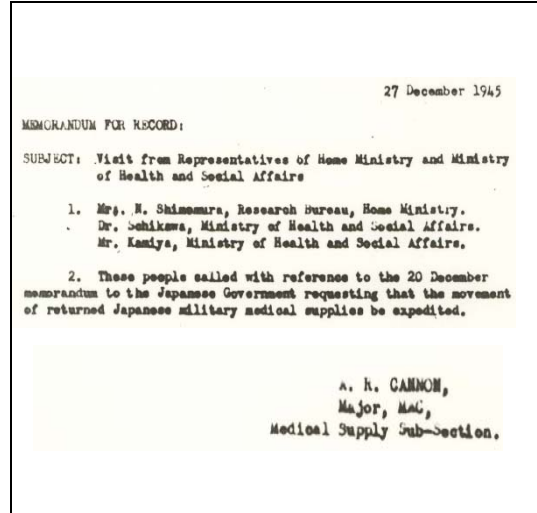
(2) 右記のように GHQ 文書は何重にもカーボンコピーされたため判読が困難になっている。これを解読した後、電子ファイル上に復刻を行う。復刻した電子ファイルにおいては、書類作成年月日、表題、書類起草者名等

をハイパーリンクすることによりデータベース化した。

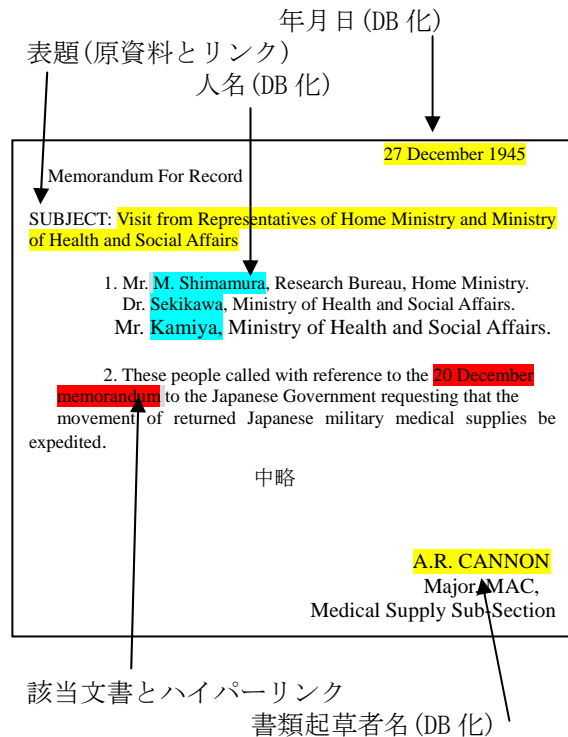
(3) 最終年度は、それまでの年度と同様に Memorandum for Record の復刻作業と年次別・カテゴリー別の考察を、年表を作成して保健医療政策の経過を分析するほか、GHQ 文書中の統計資料と時系列の出来事の関連づけを行った。

## 研究方法 3 (2) の分析作業例

### 【原資料】



### 【復刻・リンク化したシート】



#### 4. 研究成果

(1) **Daily Journal** は、1945 年 10 月から 1952 年まで原則として毎日発行され、公衆衛生福祉局の 1 日の活動内容として、無線文、指令、記録用覚書 (Memorandum for Record)、会議、手紙、チェックシートのコピー、会議抄録等が収載されている。各日の **Daily Journal** にはこの **Memorandum for Record** の表題リストが存在しているが、必ずしもそのすべてが実際にコピーとして添付されてはならず、また逆に表題リストには掲載されていないがコピーは存在するものもあることが分かった。1945~52 年での表題リストに記載されている覚書の合計は 15,073 件で、そのうち 638 件は現存していなかった。一方、表題リストには記載されていないがファイルに現存していた覚書の合計は 2,554 件で、**Daily Journal** に添付文書として現存している合計は 17,442 件であった。

記録用覚書のリスト掲載の有無と現存文書の件数

年	有	無	文書現存	現存文書計
1945				433*
1946	1819	169	501	2320
1947	3022	112	529	3551
1948	2875	87	395	3270
1949	3106	63	360	3466
1950	2169	61	386	2555
1951	1079	81	249	1328
1952	365	65	134	499
	14435	638	2554	17422

\* : 1945 年は分析中

(2) 記録用覚書の書類作成年月日、表題、書類起草者名等を Microsoft Access を用いてデータベース化した。上記したように記録用覚書は全部で 17,000 件以上に達しているため、1946 年より順次作業を行ったが、現在までに約 200 件のデータ処理しか完了していない。今後の、記録用覚書の文中の人名や事業名等に、既に復刻を行った **Weekly Journal** ハイパーリンク化する作業については、現在、効率のよいシステムを作成中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 杉田聡、保健医療分野における GHQ 文書研究の概況と今日的意義、保健の科学、査読無、51(7):436-440、2009

- ② 田中誠二、杉田聡、安藤敬子、丸井英二、風土病マラリアはいかに撲滅されたか 第二次大戦後の滋賀県彦根市、日本医史学雑誌、査読有、55(1):15-30、2009
- ③ 田中誠二、杉田聡、丸井英二、戦後占領期におけるマラリア流行の 2 類型、日本衛生学雑誌、査読有、64(1):3-13、2007
- ④ 杉田聡、森山敬子、戦前、占領期の保健医療政策の分析を通じての現在の保健医療制度の考察、生存科学 B、査読無、17:81-97、2007
- ⑤ 田中誠二、杉田聡、森山敬子、丸井英二、占領期における急性感染症の発生推移、日本医史学雑誌、査読有 53(2):229-248、2007

[学会発表] (計 4 件)

- ① 田中誠二、杉田聡、安藤敬子、丸井英二、戦後占領期における感染症報告の方法、第 110 回日本医史学会学術大会、2009 年 6 月 6 日、佐賀県佐賀市
- ② 田中誠二、杉田聡、安藤敬子、丸井英二、彦根市のマラリア対策 自主製作映画「翼もつ熱病」について、第 67 回日本公衆衛生学会総会、2008 年 11 月 6 日、神奈川県横浜市
- ③ 田中誠二、杉田聡、森山敬子、丸井英二、彦根市のマラリア対策 小林郁と小林弘の役割、第 109 回日本医史学会学術大会、2008 年 6 月 21 日、千葉県佐倉市
- ④ 杉田聡、田中誠二、丸井英二：占領期における援助物資と学校給食の拡充 - GHQ/SCAP 文書による考察 -、第 72 回日本民族衛生学会総会、2007 年 11 月 8 日、富山県高岡市

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：

取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

GHQ/PHW (公衆衛生福祉局) Weekly Bulletin  
復刻資料の提供について  
<http://www.rekishow.org/GHQ-PHW/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

杉田 聡 (SUGITA SATORU)  
大分大学・医学部・教授  
研究者番号：00222050

### (2) 研究分担者

丸井 英二 (MARUI EIJI)  
順天堂大学・医学部・教授  
研究者番号：30111545  
(H20-H21:連携研究者)

佐藤 公美子 (SATOU KUMIKO)  
札幌市立大学・看護学部・講師  
研究者番号：30324213  
(H20-H21:連携研究者)

安藤 敬子 (ANDOU TAKAKO)  
西南女学院大学・保健福祉学部・助手  
研究者番号：80412691  
(H20-H21:連携研究者)

渡部 幹夫 (WATANABE MIKIO)  
順天堂大学・医療看護学部・教授  
研究者番号：00138281  
(H20-H21:連携研究者)

等々力 英美 (TODOROKI HIDE MI)  
琉球大学・医学部・准教授  
研究者番号：60175479  
(H20-H21:連携研究者)

近藤 正英 (KONDOU MASAHIDE)  
筑波大学・人間総合科学研究科・講師  
研究者番号：70334068  
(H20-H21:連携研究者)

### (3) 連携研究者

上記参照

### (4) 研究協力者

田中 誠二 (TANAKA SEIJI)  
順天堂大学・医学部・助教